

であらうか、

僕は兩戸をくつて、めんどくさいので小砂利の上へ小便した。

『もう静かにおとなしくねませう』

殘虐な、凌辱をほしひまゝにする事の出来なかつた狂暴の限りを盡した一夜は、かくて朝を迎へんとした。

僕は眠つたのだ。

目が覺めた。

眠つたやうな氣がしない。

女は僕の枕元に、羽織を着て坐つてゐる。

明るい陽光が、板戸の隙き間から洩れる。

『もう何時頃だらう、僕は眠つたらうか』

女に聞いてみた。

板戸を二枚だけ女に繰らして、僕は矢張り床の中に凝乎してゐた。